

(13) 西土佐小学校

学 校 長 段松 淑子
校内研究代表者 堀地 早紀

1. 研究主題

「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童の育成」
～言語活動の工夫と情報活用の充実を目指して～

2. 研究主題設定の理由

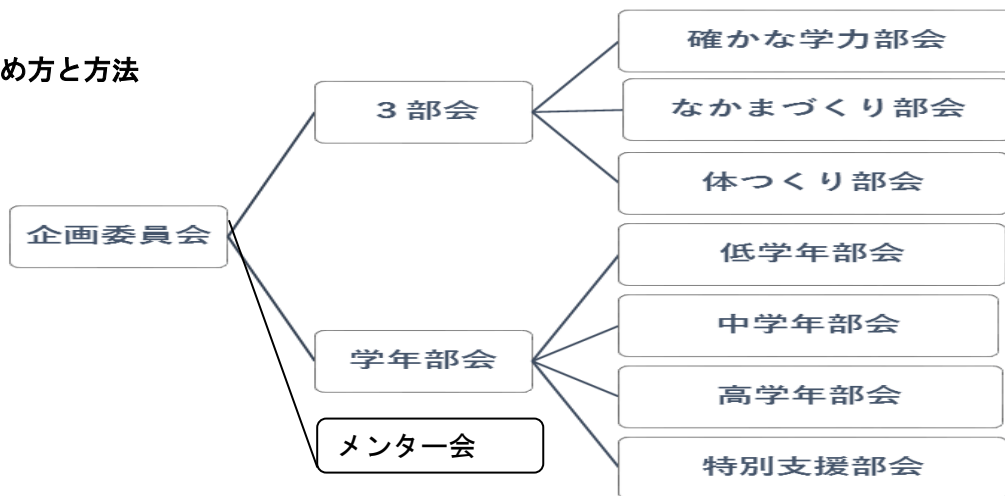
本校は、平成30年度より学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業の指定校として、取り組んできた。

昨年度は、単元構想の際、学習指導要領をもとに育成したい資質・能力を明確にし、適切な言語活動を位置付けたり、図書館資料等を活用し、並行読書したりすることで、言語能力や情報活用能力の育成及び定着を図ってきた。そのため、令和元年度高知県学力定着状況調査結果では、4・5年ともに全国平均を上回り、「読む力」においても、4年・5年ともに目標を達成した。しかし、文章中にある情報を適切に読みとれていなかったり、情報と情報との関係を捉えたりすることには未だ弱さが見られる。また、記述式問題について、無解答は少なくなってきたはいるものの、依然として課題が残っており、書かれている文章が正確に理解できていなかったり、書き方はわかっている必要情報を抜き出すことができていなかったりする。これらのことから、自分の伝えたい情報を的確にとらえ、自分の考えを表現する力の育成も求められている。

また、児童は学習課題に真面目に取り組むことができるが、意欲的に学習に取り組んだり、自分の思いを表現したりすることに弱さがある。そのため「資質能力ベースのめあてとまとめ」「相手・目的意識のある言語活動の設定」「必然性のある課題設定」「学習評価の充実」など、授業構成や授業展開を工夫して進めていく必要がある。

そこで、研究主題を「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童の育成」と設定し、これらの課題解決に向けて、学習指導要領の趣旨を踏まえ主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善し、言語能力・情報活用能力の育成を目指すとともに、授業の中で図書館を活用して身に付けた読み方を日々の読書へとつなげていきたい。

3. 研究の進め方と方法



- ・全体研究日…第2、3、4水曜日（15：20～16：40）
- ・学年部会…各学年、学級の研究授業前に部会を設定して事前研を行う。（1回以上）
- ・メンター会…第2、4金曜日（16：20～16：40）

4. 具体的な取り組み

(1) 確かな学力部会

①授業力向上

- ・ 図書館資料や新聞を活用した言語能力及び情報活用能力の育成
- ・ 資質能力ベースの授業づくり（めあてとまとめの整合性、思考のわかる板書やノートなど）
- ・ 対話の充実
- ・ 主体性（相手・目的意識の明確化、課題設定、導入の工夫）
- ・ 情報活用能力育成年間計画に沿った授業
- ・ 研究授業の実施（教材研究、模擬授業、事後研究を含む）
- ・ 日々の授業改善（各種学力調査結果、授業力チェック、授業参観、ノートの見合いなど）
- ・ カリキュラムマネジメントの活用

②基礎学力の定着

- ・ 帯タイムや裁量の時間を活用した基礎学力の定着
- ・ 辞書や教科書を活用した語彙を豊かにするための取り組み（意味調べ、言葉の広場の活用）
- ・ 単元ごとの「知識及び技能」の確実な指導
- ・ 自主学習の充実
- ・ 家庭学習の定着状況の把握

③読書活動の推進

- ・ 読書目標を設定、月ごとの読書冊数を把握
- ・ 幅広い読書（ジャンルカードの活用）
- ・ 図書委員会による読書推進の取組
- ・ 本に親しみやすい環境づくり（各学級に必読図書の設置、成果物を図書室に掲示）

(2) なかまづくり部会

①道徳・人権教育、特別支援教育

- ・ 人権道徳、道徳科の校内研修
- ・ 人権参観日（人権課題の割り振り、略案や振り返りを残す）
- ・ 人権週間（人権標語や人権宣言に取り組む）
- ・ 道徳参観日の実施（「高知の道徳」等の活用、重点項目についての授業）
- ・ 特別支援教育の充実（理解学習、交流学习）

②キャリア教育

- ・ キャリアシートの活用
- ・ 各学年のキャリア教育年間計画の実施検証、見直し
- ・ 規範意識の向上

③生徒指導の充実・いじめの防止、不登校の予防を支援

- ・ 児童会を主体としたあいさつへの取組
- ・ 家庭や地域との連携
- ・ 校内委員会、支援会の実施
- ・ 児童理解（Q-Uアンケートの実施、分析）

(3) 体づくり部会

①体力向上

- ・ 体育授業の指導力向上（マット運動と跳び箱運動の実施時期を統一、体力テストの分析）
- ・ 中学校との連携（体育授業の参観、出前授業等）
- ・ 体育授業アンケートを学期に1回実施
（1学期：マット運動、2学期：跳び箱運動、3学期：ボール運動）
- ・ 体力測定、朝運動
- ・ 学級での運動（ジャックナイフストレッチ・グーパー運動）の毎日実施

②健康教育

- ・生活習慣に関する保健指導（放課後等の個別指導）
- ・宣誓書の取組（学期に1回）
- ・保健指導、食指導を各学年1回以上実施
- ・ノーメディアデーの推進
- ・ほけんだより、スクールミールだよりの定期的な発行

③安全教育

- ・高知県安全教育プログラムの推進、学期毎に活用状況を調査
- ・避難訓練後、全学年同じ時間に防災学習（3学期）
- ・教職員対象のAED講習を実施
- ・引き渡し訓練の実施
- ・防災についての校内研修（夏季休業中）

5. 今年度の成果と課題

- 学習指導要領や既習事項を確認して、その単元でつける力を明確にしてから授業に取り組むことができた。相手・目的意識をもたせた単元づくりができるようになった。
- 個人思考やグループでの話し合いの時に、子どもたち自ら言葉に着目しようとする姿が多くなってきた。
- 幅広い読書への取り組みや授業で並行読書をすることで、いろんなジャンルを読む児童が増え、読書が好きという児童も昨年より増えた。
- 道徳科の研究授業を行い、教材研究の仕方や児童の見取り方などを学ぶことができた。また、板書交流を行うことで、構造的な板書について意見交流を行うことができた。
- 生活目標について、「あいさつ」「チャイムで着席」などの弱さが見られる項目を学級会で話題として取り上げ、児童が自分事として解決策を考えていくことができた。
- 生徒指導の3機能を生かした授業づくりを行うために、月に1回チェックシートを活用して日々の実践を振り返ることができた。
- マット運動と跳び箱運動の実施時期をそろえることにより、児童が自分たちで準備しやすい環境ができた。準備・片付けにかかる時間を短縮できた。
- 体育の授業で動画や写真などの視覚的な教材を使用することができ、動き方のポイントを示すことができた。
- 朝運動をサーキット形式にしたり、音楽を流しながら実施したりすることで児童が楽しんで運動することができた。また、休み時間の外遊びにも繋がった。
- 学力調査等の結果から、学力向上に大きな課題が見られた。授業改善と学力向上策を同時に進めていく。
- 教師の発問（主要発問、問い返しなど）を厳選し、子どもたちが熱中できるような活動への手立てを考えながら、授業の質を高める必要がある。
- 学習に必然性や困り感を感じさせながら、相手・目的意識を継続させた単元づくりに課題がある。
- 自分に自信が持てなかったり、自分のことが好きだと言えなかったりする児童の割合が高く、自己肯定感を高める取り組みに力を入れる必要がある。
- あいさつ向上の取り組みを行ってきたが、自分から元気にあいさつしたり、あいさつを返したりすることに課題が残った。
- ノーメディアを呼びかけたり、メディア依存症についての動画を見せたりする取り組みを実施したが、依然としてテレビやゲームの時間が多い児童がいる。
- 課題であった握力を付けるために朝運動に取り組んだが、県平均を下回る児童が多い。今後も朝運動の継続や、新たな取り組みを考える必要がある。